

会長	副会長	幹事長	局長	次長	主 幹	係長	主係

第5回神崎町・大河内町合併協議会 新町建設計画小委員会会議録

開会日時 平成16年6月16日（水） 午後1時30分

場 所 大河内町保健福祉センター

神崎町・大河内町合併協議会

神崎町・大河内町合併協議会小委員会委員名簿

第2小委員会（新町建設計画小委員会）

協議会委員関係分

	氏 名	区 分	分 科 会	備 考	出 欠
1	奥野恒夫	第2号委員	総務文教	神崎町	出
2	高内直喜	"	産業建設	大河内町	出
3	井上秀男	第3号委員	民生福祉	神崎町	出
4	岩本精介	"	"	大河内町	出
5	尾上徳美	"	"	神崎町	欠
6	上垣博	"	産業建設	大河内町	出
7	高橋勝洋	"	総務文教	神崎町	出
8	立岩三代子	"	産業建設	大河内町	出
9	日和貞憲	"	民生福祉	大河内町	欠
10	中山祐美子	"	総務文教	神崎町	出
11	廣納正	"	産業建設	神崎町	出
12	藤原博一	"	総務文教	大河内町	出
13	藤原鉄也	"	"	神崎町	欠
14	藤原安晴	"	民生福祉	大河内町	出
15	堀口勝久	"	産業建設	神崎町	出
16	松山陽子	"	民生福祉	大河内町	出

町長指名委員関係分

	氏 名	分 科 会	備 考	出 欠
1	児島英雄	総務文教	大河内町	欠
2	大仲正記	"	"	出
3	大谷郁雄	産業建設	"	出
4	小寺敏樹	"	"	出
5	山下和彦	総務文教	"	出
6	大中康寛	"	"	出
7	井上隆弘	産業建設	神崎町	出
8	西畑強	"	"	出
9	奥野恵作	"	"	出
10	坂田篤彦	民生福祉	"	出
11	難波義博	"	"	出
12	藤原日順	総務文教	"	出

会 議 録

会議の名称	神崎町・大河内町合併協議会新町建設計画小委員会	
開催日時	平成16年 6月16日(水) 開会 13時30分 閉会 16時10分	
開催場所	大河内町保健福祉センター	
議長氏名	井上秀男	
出席者氏名	別紙「出席者名簿」のとおり	
欠席者氏名	別紙「欠席者名簿」のとおり	
会議事項	<p>1 意見交換</p> <p>(1) まちづくりの課題</p> <p>(2) 合併の必要性</p> <p>(3) 新町建設の基本方針</p>	<p>2 会議結果</p> <p>議論</p> <p>議論</p> <p>議論</p>
会議の経過	別添のとおり	
会議資料	別添資料あり	

会 議 経 過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
内藤（事務局長）	<p>それでは、皆さんこんにちは。</p> <p>第5回の新町建設小委員会をご案内申し上げました。大変暑い中、いろいろとご予定あったかと思いますが、お繰り合わせの上ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>早速でございますが、最初に井上委員長からごあいさつをいただきます。</p>
井上（委員長）	<p>皆さん、こんにちは。ご苦労さんでございます。</p> <p>梅雨の中休みということで大変暑い日が毎日続いております。委員の皆様には、お変わりなくご健勝の様子に接しまして、心からお喜びを申し上げたいと思います。</p> <p>本日は第5回の新町建設計画小委員会を開催をさせていただきました。委員の皆さん方には、去る6月13日に合併協議会を開きまして、まだ日も浅く、何かご予定はあったかと思いますが、お繰り合わせをいただきましてご出席まことにありがとうございます。厚くお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>本日は、去る日に委員の皆さん方に大変お世話になりご苦労をおかけいたしました新しい村づくりのワークショップを踏まえまして、さらに審議を重ねていただくことにしております。どうぞ皆さん方の積極的なご意見を賜りますように最初をお願いを申し上げまして、一言ごあいさつといたします。本日はどうもご苦労さんです。ありがとうございます。</p>
内藤（事務局長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日は上野副会長、日和貞憲委員さん、尾上徳美委員さん、藤原鉄也委員さんから、それぞれ欠席の連絡がございましたので、ここでご報告を申し上げたいと思います。</p> <p>なお、パシフィックコンサルも2名お越しいただいております。</p> <p>それでは、井上委員長に、次第に従いまして進行していただきますのでよろしく願いしたいと思います。</p>
井上（委員長）	<p>それでは、早速でございますが、議事に入らせていただきたいと思います。</p> <p>本日の委員会は、28名中24名の出席をいただいておりますので、会議規則の定足数に達しております。よって、会議は成立します。</p> <p>なお、今回につきましても、発言の際は町名と名前をお願いをいたします。</p> <p>前回は、これまでのまちづくりの方向性、まちづくりの課題等につ</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
吉岡（事務局）	<p>きましてワークショップで提案いただき、また話し合っていたことにつきまして、分科会ごとに発表いただきました。</p> <p>今回は、この結果を踏まえてもう少し掘り下げ、意見交換をいただきたいと思います。また、事前に配付をいたしております基本方針、合併の必要性につきまして、たたき台ができておりますので、ご検討いただくことにもなっておりますのでよろしく願いをいたします。</p> <p>それでは、次第に基づきまして、事務局から説明をお願いしてきたいと思います。</p> <p>最初に、ワークショップで提案されました意見を踏まえたまちづくりの課題について事務局から説明をいただいた後、これについて意見を伺ってまいりますので、よろしく願いをいたします。</p> <p>それでは、事務局、まちづくりの課題についてご説明をお願いいたします。</p> <p>失礼をいたします。そしたら、まちづくりの課題ということにつきまして、事前にお配りさせていただいております資料に基づいて、これ朗読をさせていただいて提案にかえさせていただきたいというふうに思います。</p> <p>濟いませんが、長文ですんで座って読まさせていただきます。</p> <p>まちづくりの課題。</p> <p>以上のような新町の現状とこれまでのまちづくりの方向性を踏まえると、新町における今後のまちづくりにおいては、以下のような課題への対応・検討が必要であると考えられます。</p> <p>1) 自然環境と調和した地域産業の振興。</p> <p>自然環境の維持管理。</p> <p>農地には休耕田や荒地が目立ち、山林では雑木林や野生動物の減少が進むなど、産業の基礎である良好な自然環境が荒れてきている状況が見受けられます。</p> <p>その背景には、第1次産業の低迷や高齢化に伴う維持管理従事者の不足や、開発に伴う、本来自然が有する多面的な機能（浄化機能、水源涵養機能、景観形成機能等）の喪失などが挙げられます。</p> <p>物質的な豊かさから、心の豊かさが叫ばれる中で、豊かで美しい自然が有する価値や機能を再認識し、その保全と継承、さらには自然資源の多様な活用のあり方を検討していく必要があります。</p> <p>地域産業の振興・担い手確保。</p> <p>海外からの輸入製品の影響や、生活様式の変化等により、農産物や木材等の第1次産品の価格が下落しており、これが従事者の生産意欲</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>の低下、さらには労働の厳しさと相まって若者の第1次産業離れを促す要因となっています。</p> <p>価格競争に対抗していくためのより効率的な作業環境・体制の構築を図ることに加え、農業においては、安全性やおいしさを基軸に据えた生産物の付加価値化や地元消費の推進等に取り組み、林業においては、枝打ち、間伐といった適正な維持管理や、地元産材の利用促進、さらには山を舞台とした都市住民との交流の促進等、森林資源の多様な活用を検討していく必要があります。</p> <p>一方、第1次産業の低迷が続く中で、新しい基幹産業の創造も求められています。工業団地は売却用地が残存しており、地域社会に調和した工業の誘致・育成を促進していく必要があります。</p> <p>また産業のサービス化が進む中で、時代や地域のニーズにマッチした新たな商業、サービス産業の育成にも取り組んでいく必要があります。</p> <p>観光資源の魅力化や連携による交流の促進。</p> <p>新町内には、多くの観光・レクリエーション施設が立地していますが、類似施設の存在や、年月の経過による魅力の低下等により、利用者が減少してきている施設も見受けられます。</p> <p>利用者の安定確保に向けては、まずは地域住民自身がそれらの施設を積極的に利用し、また都市住民と地域住民のさまざまな交流活動の場等として、施設の積極的な活用がなされることが重要です。</p> <p>そのため、施設の更新や新しいサービスの提供に際しては、地域住民からもさまざまな意見やアイデアを出し合い、利用者本位の整備を進める必要があります。</p> <p>また、施設間の観光ルートとしての結びつきや、連携が弱いため、地域内には魅力ある宿泊施設があるにもかかわらず、地域内の観光は日帰りを中心であり、滞在型観光としての十分な機能が果たせていない実情にあります。</p> <p>観光ルートとしての道路・交通ネットワークの整備充実や、観光施設間の連携体制の構築に加え、地域住民との一体的な取り組みによる美しい地域景観の形成や、特色あるイベントの実施、産業体験などにより、地域内での観光行動を点から線へ、線から面へと拡大させていく必要があります。</p> <p>次に、2)豊かさ・生きがい・安らぎが感じられる生活環境の創造。</p> <p>高齢者が生きがいを持って生活し続けられる環境づくり。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>高齢化社会が進む中で、ひとり暮らしの高齢者や老人世帯が着実に増加してきています。その中で高齢者の日常的な買い物や通院に際する移動が不便であるといった状況が見受けられます。</p> <p>また、寝たきりの高齢者や介護対象の高齢者の増加は、医療・福祉等に係る経費の一層の増加につながることから、高齢者が地域社会とのかかわりを持ち続けることで、いつまでも心身の健康を維持し、自立した生活を送れるような環境整備を行うことが重要です。</p> <p>そのため、高齢者の生きがいづくりにかかわる活動の機会をより一層充実させていくことや、公共交通、公共施設等を高齢者が利用しやすいようにするための対策が必要です。</p> <p>若者層の定住を促進する環境づくり。</p> <p>地域の若者層は、地域内での働く場の不足から、進学後も地域外で就職する者が多く、結果として若者層の減少とそれに伴う少子化が進むという状況が見受けられます。</p> <p>また、地域の魅力である自然についても、若者にとっては必ずしも生活環境上の魅力として捉えられていないことや、親との別居を望む若者世帯が、地域内で低廉に居住する場が十分に確保されていないこと、また共働き世帯等に対する子育て支援の環境が十分でないことなど、若者層が地域外に流出する要因はさまざま考えられます。</p> <p>若者層の流出抑制に向けては、これらの要因に対応していくことが求められますが、あわせて地域の特性を生かした、都市部にはないライフスタイルや子供の教育環境の創造など、地域での生活を誇りに感じるような、付加価値の高い環境づくりを進めていく必要があります。</p> <p>すべての人の安全・安心の確保。</p> <p>若者層を初め、昼間人口の減少により消防団員が不足していること、また救急・消防車等の現場への到着までに時間がかかるなど、救急体制や防災体制が弱い状況が見受けられます。</p> <p>一方、住民の防災に対する意識も低く、地震等の巨大災害が発生した場合に、被災者を最小限に食い止められないことも懸念されます。</p> <p>また、近年地域内での犯罪も増加してきています。</p> <p>これらに対する安全・安心対策としては、行政側の非常時における救急・防災体制等の充実に加え、住民一人ひとりの日常的な行動や意識、地域内での日常的なコミュニケーション活動が、非常時においても生かせることが重要です。CATV等の情報ツールを活用しながら、どのような非常時においても、住民・行政の適切かつ迅速な判断</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>と行動を喚起させる日常的な取り組みの推進が求められています。</p> <p>3) 地域への愛着を持ち、地域社会をともに支える人づくり。</p> <p>地域社会での生きがいをはぐくむ生涯学習・スポーツ活動の促進。</p> <p>新町は、周辺地域と比較しても、非常に充実した生涯学習施設やスポーツ交流施設を有しています。中でも、多種多様で創意工夫に満ちた活動が中央公民館を拠点に展開されています。また、健康志向の高まりから地域の自主性にゆだね発足した地域スポーツクラブ活動を初め、今後の充実した展開が期待されています。しかし、閉鎖的で硬直的な組織運営が弊害となって、これらに参加する人とならない人とのギャップが大きくなってきています。</p> <p>また、施設の老朽化やアクセス性の問題、施設はあっても特色のない施設、PR不足から利用が頭打ちの状況です。このため、わざわざ利用したくなるような特色づけや広報・PRを進めていくほか、老朽化施設の今後の維持管理を考えた場合、幼児施設などの新しいニーズに合った施設や工夫を凝らした施設へ転換していくことも検討する必要があります。</p> <p>このような課題が解決され施設利用が進むことによって、人々がそこでの芸術や文化活動、スポーツ活動等を通じて、学び、創造、交流の楽しさを感じ、さらには地域社会への誇りや生きがいを感じられるようになることが重要です。</p> <p>住民の主体的なまちづくりへの参画。</p> <p>地域住民、各種団体、企業、行政など、地域にかかわる多様な主体が、対等なパートナーシップのもとに参画し、それぞれの特性を生かした適切な役割分担のもと、地域のあるべき将来像の実現に向けて協働していくことが重要です。しかし、新町では集落単位での住民参画は機能しているものの、町全体における案件に対して対応できていない状況です。また、財政的、人的制約により、行政、集落ともにその活動や支援に対して限界が生じているところです。</p> <p>今後、厳しい財政状況の中で、現行政サービスを維持しながら、さらに多様化する住民ニーズや、さまざまな地域課題に、行政内部の取り組みだけでこたえていくのは困難な状況にきています。このため、広域的な課題に対応できる住民主体の組織化を図り、行政はアドバイザー役となり、住民が主体的にまちづくりを進めていくための環境整備を進めていく必要があります。</p> <p>またその際、ケーブルテレビや広報等を活用することによって、さ</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>まざまな自助・共助活動が生まれ、発展していくような支援を進めていく必要があります。</p> <p>子どもたちの教育に係る学校・家庭・地域の連携。</p> <p>高度情報通信の発展、グローバル化する経済・産業活動、児童・生徒が巻き込まれる凶悪犯罪の増加など、子供たちを取り巻く社会環境は大きく変化しています。これからの教育においては、子供たちの自由な発想力や社会の変化に的確に対応していける能力、さらには心身のたくましさ、人に対する思いやり等を育てる環境が重要となっています。また、家庭環境、地域社会が子供に与える影響に十分配慮し、学校を核とした地域コミュニケーションの醸成や、子供が安全で安心して活動できる居場所の確保等、さまざまな対応が求められてきています。</p> <p>このような状況の中、少子化が新町に与える影響は多大なものがあり、教育レベルの低下や人間形成への影響の問題が大きな課題として挙げられます。</p> <p>教育レベルの低下の問題では、小学校数が9校と多く、小規模学校では、複式学級、山村留学制度等で補っていますが、児童が少数であることから、競争意識が低下するなどの問題があります。また、人間形成の問題では、しつけや子育てに自信のない親の増加、過保護や過干渉、無責任な放任などで保護者の教育力の低下が問題となっています。このため家庭教育を高めるとともに、地域全体で子供たちを育てる体制づくりが求められています。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ただいま事務局の方からまちづくりの課題について縷々説明がございました。</p> <p>ただいまのまちづくりの課題についてご意見をお受けいたしたいと思います。</p> <p>事前に委員の皆さん方にはお目通しをいただいておりますので、積極的にご発言をいただきますようお願いを申し上げます。</p> <p>どうぞ。</p> <p>どうぞ。</p>
西畑委員	<p>神崎町の西畑です。</p> <p>まちづくりの課題の中で、1番の自然環境と調和した地域産業の振興の中で、でございますが、自然環境の維持管理という、そういう文言の中で3行目でございますが、「維持管理従事者の不足や、開発</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>に伴う」という、そういったものが記載されておりまして、「開発に伴う、本来自然が有する多面的な機能」という、そういった文言の中で、この「開発に伴う」という文言が、私自身こういった形で、林業関係に携わっておる関係から、「山林の手入れ不足等により」というような文言の方が適正ではないかなというところで、一度検討をお願いしたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次にどなたか。</p> <p>どうぞ。</p>
上垣委員	<p>失礼します。大河内町の上垣です。</p> <p>これは質問ではないんですけども、ちょっと確認事項ですが、去る6月12日に大河内町の役場周辺で環境を考える集いというテーマの県自治労主催のイベントがありましたけども、それはここに出席の皆さんがご存じであったか、なおかつ出席されたかどうかを、確認できる範囲で結構です、ちょっとそれを確認させていただきたいと思います。</p>
井上（委員長）	<p>どなたか。</p> <p>今、ご発言がございましたが、だれかこの中で参加された方ございますか。</p> <p>〔参加者挙手〕</p>
井上（委員長）	<p>3名。ありがとうございます。</p>
上垣委員	<p>ありがとうございました。</p>
井上（委員長）	<p>じゃ、それでよろしいですか。</p>
上垣委員	<p>はい。</p>
井上（委員長）	<p>ほかに何か。</p> <p>ほかにどなたか、どんなことでも結構でございます。今、思っておられること、どんなことでもよろしゅうございます。余りかたくならないように。</p> <p>どうぞ。</p>
藤原（日）委員	<p>済いません。神崎町の藤原と申します。</p> <p>こちらの方読ませていただいて、感想というわけじゃないんですけども、まさに書いてあるとおりなんです。でも、それ以上の何ものでもないんだ。まさにこういう課題があって、これからこうしないといけないよということはわかるんだけども、さあどうするんだということが出てこない。ただ、それはいろいろ行政的な配慮とか、その辺がありますんでそれは難しいと思うんですけども、少なくとも感想で</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
<p>井上（委員長）</p> <p>山下委員</p>	<p>言えばまさにこれ書いてあるとおり、すべての面において現在の課題であり、これからどうしなくちゃいかんというのは、まさにここに書いてあるとおりだなというのが感想です。意見になってませんけども。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p> <p>大河内町の山下ですけども、ちょっと自然環境というキーワードが神崎町・大河内町両町とも非常にどこの文章見ても、多々出てくると思うんですけども、自然というものを一体皆さんがどうとらえられているのかなというのを常々疑問に考えるわけなんですけども、自然というのは人間が手を加えないのが自然なのかどうかというのは、私も当初そういうもんが自然なのかというふうに考えてたわけなんですけども、里山というのがよくいろいろ森林資源の話が出てきたときに出てくると思うんですけども、里山というのはそもそも人間が手加えることによって維持管理していくという自然環境ということで、自然、動物、植物の方の生態と人間が協調していくという、人間が作り上げてきた自然というのは非常に人間にとってもいいということで、今見直されてると思うんですけども。</p> <p>もう一つちょっと具体的に、私もど忘れしてるんですけど、三重県の方の山林を管理されてるような会社が、当然山林を管理されて資産としては非常によい環境にあるということで、世界的にも注目されている会社があるわけなんですけども、そこは人はとにかく山に入って間伐を、伐採して、その中で必要な木は切って日の当たる環境を作ることによって、そこにすむ動植物の数を増やしていくということが認められて、非常にその木材というのは付加価値がついてるという。</p> <p>今、ここから見える山林も非常に木々が生き茂って美しいように見えますけども、果たしてあれが資産価値があるのかというような、そういうふうに人間がこれから手を加えないと、自然というのは本当の意味で生かされてこない時代になりつつある。そこに差別化というのが生まれてくるんじゃないのかなと思うわけなんですけども、じゃあ実際問題、この森林を管理する人たちの不足というのが実際問題あるわけなんです。じゃあ、その人たちをほかから受け入れることはできないのか。じゃあ、例えば地元のボランティア組織、山林ボランティアみたいなものを受け入れることによって、両町の山々を守っていくことによって、その自分たちが作った山々を自然を売り文句にしていくというような形も、一つのアイデアとしてどうなのかなというふう</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>に、自分たちで作り上げる自然を売り文句にしていくという、ただある自然を売り文句にするんじゃないで、やっぱり自分たちで維持管理していかないと、この自然というのは本来の美しさというのは保てないんじゃないのかなという、思ってるわけなんです。私の意見としてそういうことでございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p>
高橋委員	<p>神崎町、高橋です。</p> <p>子どもたちの教育に係る学校・家庭・地域の連携ということの、一言。</p> <p>少子化とか出とんですけど、せんだって地域でこの秋の夏祭り等について三社寄ってという話をしていた。帰って子供の親とも話ししてみたら、今子供の人数がピークで、あと四、五年すれば子供屋台もかく手がないというようなこと。それなぜなのか、この間も女の子ですが、30歳前後ですが、結婚を勧めてみたんですけども、出会う機会を作ってやろうと思っても、本人の気持ちは出会う気持ちはないと。ほんで、すぐ断りすると。子育てといってももう1人ぐらいしか子供を育てない。それは学費とかいろんな費用が高い。もうたくさんの子を作っても生活が苦しくなる。こんな現状でないかと思えます。</p> <p>ここに書いたの、抽象的なことばかり書いてあるんですけども、もっともっと一つ一つ掘り下げていけば、昨日も神崎高校の3年生との交流会に行ったんですけども、親が言うには、ここへ、子供自身が分数で2分の1足す3分の1を5分の2にしてしまう、小学校、中学校通してその辺が悩みで、学力がどんどん落ちてしまってこの高等学校へ来たとき、こういうような話も聞いたりします。</p> <p>そういうことで、親と私たちの年輩との、若者の親と私ら年輩との大きな落差というんか断層があるように思うんです。村のいろんな行事、果たしてだれが引き継いでくれるのか、その辺もいろんな問題点が浮かんでくるかと思えます。</p> <p>以上、思いつくまま言いましたけど。</p>
井上（委員長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、どうぞ。</p>
藤原（日）委員	<p>神崎町の藤原です。何度も済いません。</p> <p>先ほど山下さんが指摘されたことなんですけど、非常に大事なことだと思うんですね。重要な指摘をされたと思うんです。自然につい</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長） 藤原（博）委員	<p>て、やっぱり管理された自然こそが本当の自然であるという認識をやっぱり住民みんなが持つ必要があるんじゃないかなというように思いますので、一応参考意見ということで言わせていただきました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次、どうぞ。</p> <p>寺前の藤原でございます。</p> <p>総務文教の部分でございますが、文化で議論いたしまして、この黒枠でというんですか、網がけをしておところが各3つともあるわけなんです、その部分について文章が余りにもきれいで、入ってないと言ったらおかしいんですが、反映が多少少ないんじゃないかなと。私たちは、まとめましたのは、この黒枠で囲んで網がけした部分は問題点ですよ、大切ですよと言ったつもりなんです、ちょっとこれにそういったことがあらわれてきて、余りにもきれい過ぎるんじゃないかなという気がしてちょっとなになりましたが、なかなか入れにくいとは思うんですけどね。</p> <p>例えば権限移譲とか、この黒枠の中のこうしたらというようなことをちょっと突き詰めた分がちょっと漏れてる、漏れてるといいますか、あらわしにくいのかなという気もせんでもないんですけども、ちょっと気がつきました。</p>
井上（委員長） 高内委員	<p>事務局、何か、事務局から。</p> <p>じゃ、参考にさせていただくことといたします。</p> <p>大河内の高内です。</p> <p>ここにずっと掲げられてるものは、ほとんどが、ずっと連携といたしますが、連带的に問題点が重なってくるように思われますし、するので、まず町の将来を考えるには、やはり少子化の問題が一番大きく影響してくると思うんですね。</p> <p>そこで、この間も、東京都ですか、年間女性が子供を作るのは1人を切ったというようなことも出ておりましたし、それからテレビでおったんが、何か外国人と結婚をする業者といたしますか、そういったんもありまして、何か会費二、三十万円ほど入れますと、外国の資産家と結婚をするようなして、ある女性がしておるのをテレビでやっておりましたが、日本の何かそういった一つの形勢がずっと変わってきてしまっておるようにも思われますし、高橋さんが言われましたように、女性の方も30歳になっても結婚せんというような方もおられますし、そういうようなことで大変こういう田舎、過疎を抱える両町なんかにおっては、本当にこういった対策こそが一番大きな問題にな</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>ってくるんじゃないかと思う。</p> <p>そういうことによって、いろいろな農業の問題、林業の問題、そういったものが重なってくるんじゃないかと思うんです。</p> <p>それで、子育ての支援対策とか、そういったものは当然なんですけど、しかしながら今子育てというものについても、やはり支援金とか、それから子育て学習教室とか、両町にもされておりますし、ずっと前から見ますとそういった環境整備というものは相当進んでおっても、なかなかそういった問題が解消されないというのは、やはり社会の構築が変わったのかどうかと、わかりませんが、やはりそういう対策が一番将来の展望を見出すのに大きくなって来るんじゃないかと感じております。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次に。</p> <p>どなたかございませんか。</p> <p>どうぞ。</p>
上垣委員	<p>上垣です。</p> <p>先ほど藤原委員さんの方から出た質問に若干関連するかと思っておりますけども、今日もコンサルタントの方がご出席ということで、コンサルタントの方にちょっと質問をさせていただきたいんですけども、それぞれの項目について末尾で、いわゆる結びが「重要です」とか「必要です」とか、そういう形で結ばれておりますが、今後これを具体的にどういうふうに、コンサルとしてはどうですかという具体案は出されるあれがあるかどうかの確認をさせていただきたいと思っております。</p>
畠中（コンサル）	<p>失礼します。パシフィックコンサルタンツの畠中です。</p> <p>今、このまちづくりの課題というところ自体が、タイトルが（３）となっておりますけども、ここは両町の現状把握の段階でございます、構成としましては以前の計画書案に全体の目次構成をお出しして思うんですけども、これらの課題を踏まえて両町、力を合わせてどういうまちづくりを目指していくかとか、そのまちづくりを目指しながらいかにこういった課題を解決していくかというのは、後半に、主要施策とか主要事業のところの一つ一つの対応策を考えていきたいなというふうに考えてますので、今はあくまで、「必要です」、「重要です」というのは、これらが必要であり重要である、そのために力を合わせてどういうことをしていくかというのを、後半の部分、章番号で言うと3章、4章あたりになってこようかと思っておりますけども、そのあたりに主要施策という形で具体的な取り組みを掲載していくというよ</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>うな、報告書の体裁自体は考えております。</p> <p>その中で、また特に大事なのが、非常にハード面はこれまでも現状の資料とか現地調査をされて、両町ともに非常に充実したものをもちであるというふうに感じておりました、逆にハードそのものを、今既にあるハードをどうやって生かすかというソフト面の取り組み、森林の保全とか自然環境の、いわゆるきっちり管理された自然環境の保全とか、こういうものすべてハードというよりむしろソフトにかかわる内容でないかと思えます。こういったところに関しましては、非常に行政だけでは難しいところがありまして、是非皆さんのお知恵も出していただきながら、その取り組み一つ一つ、ここで「重要」、「必要」と書いてることについて、どんなことが皆さんでできるか、行政とどういうふうにタグを組んでやっていけるかということについて、または是非議論させていただきたいなと思っております。</p>
井上（委員長）	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>よろしゅうございますか。</p>
上垣委員	<p>お願いをしておきたいと思えますけども、この具体的な取り組みを考えるのに積極的な議論をよろしくお願ひしたいと思えますんで、よろしくお願ひします。</p>
井上（委員長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>今お聞きのように、まちづくりを進めるためには、やはり委員皆さん方がいろいろ、ことを、思っておられることを忌憚なく吐いていただきまして、それをひとつ考えながら、またそれにヒントを得ながら考えていく必要があるんじゃないかならうかと思えます。</p> <p>したがいまして、それぞれ思いをぶつけていただきまして、こういう会合のときにはできるだけそういう思いを燃焼させていただきたいなと思っております。そういうことで、できるだけ自分の思いを、こんなこと言ったらどうやらかというようなことは抜きにして、とにかく新しいまちづくりをするためにはこういうこともひとつ必要やないかということ、ひとつ思い思いで結構でございますんでご発言をいただきますようお願いいたします。</p>
足立（会長）	<p>皆さん方に、第5回にも及ぶ小委員会開催をしていただきまして、精力的にこの問題に、また積極的に取り組みをいただいておりますことに対しまして、敬意と、そしてまたお礼を申し上げたいと思えます。</p> <p>今、まちづくりの課題のお話があったんでありますけども、長い間行政に携わっておる者といたしましては、課題の内容が大きく変わっ</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>たなという印象を受けます。これまででしたら、例えば下水道事業の整備を早くやれとか、あるいは道路の整備をやれとか、圃場整備をやれとかという、いったようないわゆる生活基盤の整備を早くやれというような課題が多かったんでありますが、両町におきましては、幸いにしてそういった大きな生活基盤の整備が一応終えたということもございましょう。また、時代が大きく変わりつつあるというようなこともございまして、皆さん方から大変ワークショップ等で議論をされて上がってきた問題がある程度集約された形で出ておるのを見まして、これはもう当然新しい時代の風だなと、このように思わせていただいております。</p> <p>ところで、まさにこの時期に地方分権が積極的に進められようとしたしておりますし、これまでの国庫補助事業を廃止をして、いわゆる財源移譲が果たされようとしたしております。これまでは国の補助要綱等によって全国画一的に事業が展開されておったんでありますが、これからは地方分権時代、あるいはまた財源移譲が行われますと、その地域の特色を、特色というんか、ニーズに合わせた行政をやるということでございますから、まさにこういった議論が大変大きな成果になって、あらわさなくてなりませんし、そういう状況に反映ができるんかなというふうに思っております。</p> <p>そして、特に大きなハード面的な課題については、財政の優遇措置、いわゆる特例債等をこれはもう積極的に活用してそれを整備すると。もちろん、財政には歯どめがございますんで、健全財政、これでは公債費比率という形で押さえられておるわけではありますが、その比率の範囲内で、そしていろんな財源を活用するという、特例債を活用するわけですが、課題を処理して、そしてソフト面を裏づけしていく、いわゆる財源移譲をうまく活用していくということが大変重要ではないかなというふうに思っております。</p> <p>したがいまして、皆さん方がこの小委員会で議論されることが本当に着実に実行されるような形が、これも合併によってさらにそのことが実現性が高くなるということになれば、すばらしいのではないかなというような思いをいたしました。</p> <p>本当に精力的にお取り組みをいただいておりますことに対して、重ねて厚くお礼を申し上げておきたいと思っております。</p> <p>町長、ありがとうございました。</p> <p>次に、どなたか。</p> <p>ございませんか。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
<p>松山委員</p> <p>吉岡（事務局）</p> <p>井上（委員長）</p>	<p>どうぞ。</p> <p>すいません、大河内町の松山です。</p> <p>ちょっと言葉のとらえ方だけ教えていただきたいんですけども、26ページで言ってる「地域への愛着を持ち」のところなんですが、その のところの上から3行目、「しかし、新町では」というところの「新町」というとらえ方なんですけど、これは今現在2町あわせた、今現在の町のことをとらえる新町なのか、どの時点でとらえた新町であるのかということをお願いしたいんですけど。</p> <p>両町ということで、現在の状態です。</p> <p>よろしゅうございますか。</p> <p>ほかに。</p> <p>ほかにございませんか。</p> <p>どうぞ。</p>
<p>堀口委員</p>	<p>堀口です。</p> <p>この教育問題に関係するんと思うんですけども、人間形成という言葉とか、また家庭環境、地域社会、地域環境とか、そういう言葉もよく出るんですけども、一番やはり基本になるのがやっぱり人間性を高めるということが大事やと思うんですけども、その人間性を高めるという中で、何を一番基本に持ったらいいのかということ、やはり人間として生まれてきて役割というものがどうなると、人間としての役割はどうなるということをやはり教育の中に入れていただければいいんじゃないかなと思うんです。</p> <p>いいますのは、自分が今日現在生きておるのも、親があって生まれてきたから成り立っているわけであって、勝手に生まれたもんでも何でもないんで、そうすると家庭を持つということが一番大事なことでありますんで、家庭を持つということはやはり結婚しなければならない。家庭を持つことによって、家族構成というんですか、家族の仕組みというものができくると思うんですけども、そういうものを考えた場合にやはり人間として役割は何だろうかと、何のために生きてきたんかなということをお聞きを皆さん考えてもらえるような教育をしていただければ、そうしたら何か人の役に立たないいけないんだとか、生まれてくれば必ず結婚して子孫を残すことが大事なんだというような、そういうような観点から人間性としての教育を織り込んでもらえたらいいんじゃないかなと思うんです。</p> <p>いいますのは、いろんな問題を解決するにつきましても、やはり人間が全部過去に作ってきたことを、また行動してきたことを、それを</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長） 立岩委員	<p>ずっと見て反省して、これじゃいかんじゃないかということで次々と新しいことを考えて、また物事が発生すればそれを解決していくという形でずっと取り組んでると思うんですね。だから、一番肝心なのはやはり人間としての役割というんですか、大事なことが抜けてるんじゃないかならうかと思いましたんで、ちょっと私の意見として受けとめていただいたらいいんですけども、そういうことも盛り込めるもんなら盛り込んでいただければいいんじゃないかならうかと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次、どうぞ。</p> <p>済いません、大河内町の立岩です。</p> <p>婦人会活動をしているんですけども、このまちづくりの課題の文章をずっと見てますと、地域住民からのさまざまな意見やアイデアを出し合い、利用者本位の整備を進める必要があるとか、それから高齢者の生きがいづくりにかかわる活動の機会をより一層充実させていくとか、いろいろとコミュニケーション、地域内での日常的なコミュニケーション活動とか、いろいろコミュニケーションという言葉がよく出てるんですが、婦人会活動してまして、婦人会はイベントとか、それからまた高齢者の給食サービスとか、また自主防災とか、日赤奉仕団とか、いろいろと活動はしているんですが、みんなボランティア活動ですね。</p> <p>それで、活動しているんですが、婦人会独自の活動というような形で、地区内でも区長さん、老人会、いろいろと活動もされてます。それで、やっぱり地域のコミュニケーションということは、やっぱりその横のつながり、縦のつながり、また子供会とのつながりとか、いろいろとそういうつながりの場があってもいいんじゃないか、またこういうふうな場においてもそういうふうな人の代表の集まりの場があってもいいんじゃないかと思うんですが。</p> <p>最後に、行政は住民の主体的なまちづくりへの参画というところで、「行政はアドバイザー役となり住民が主体的にまちづくりを進めていくための環境整備を進めていく必要があります」というふうな形がありますが、そういうふうな環境づくりをお願いしたいと思います。失礼します。</p>
井上（委員長） 奥野（恵）委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>奥野さん、どうぞ。</p> <p>神崎町の奥野でございます。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長） 藤原（日）委員	<p>大体課題は全部とらえられておるように見せていただいたんですけど、先ほどの総務の方の委員さんもおっしゃいました、ちょっと課題の上げ方が抽象的、平板的なんです、これが後ほどの新町建設の基本方針につながるんです、もう少しめり張りをつけて、かつこれはという具体的な課題は少しピックアップして上げられた方が、後々町民の方に説明材料としては、どうしてこれは基本方針につながるんだというあたりで効果あるんじゃないかなと思います。繰り返しになりますけど、もう少し課題の、部分的でもいいんですけども、これはというのを明確に上げられた方がいいかなというふうに思います。全般的には、僕はようまとめられとるように思いますけども。</p> <p>以上でございます。</p> <p>どうぞ。</p> <p>神崎町の藤原ですけども、先ほど堀口さんがおっしゃったことの人間として生まれてきた以上は結婚して子供という話が出ましたけども、私はそうじゃないと思うんですね。むしろ、結婚しない自由、子供を持たない自由というのは、それは当然あってしかるべきだし、ただ問題なのは結婚しようと思っても何らかの理由でできない、それから子供を持つと思うてもいろんな社会的制約といった、教育環境等々について、そういった弊害があるからできないんだという、だからそこが問題だと思うんですね。だから、そこをいかになくしていくかということをやっぱり諮っていくべきだろうというふうに私は思います。</p>
井上（委員長）	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p>
上垣委員	<p>大河内の上垣です。</p> <p>先ほど藤原さんのご意見の件ですけども、私のちょっと考え方を言いますと、これは私が感ずることなんですけども、いわゆる事結婚に関することと言えば、私ら、60代になったあれなんですけども、私らの当時の結婚観と今の若い人の結婚観の考え方が基本的に違ってきとるんじゃないかと。その根本は何かというのが1つあるのかなという気がしてました。</p> <p>それと、単純に僕が感じとるんは、要は僕らの時代は、要するに結婚せえへんかったら一人前扱いしてもらえない、社会から。そんな風潮の時代じゃなかったかと思います。だから、何らかの要因があつて</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>今の若い人の考え方が変わってきとるんかなという気がしております。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次に、どなたか。</p> <p>どなたかございませんか。</p> <p>それでは、いろいろなご意見、ご要望をお聞きいたしました。</p> <p>ほかにご意見がないようでございますので、次に移らせていただきたいと思います。</p> <p>次は、合併の必要性について、事務局の説明をお願いいたします。</p> <p>事務局、どうぞ。</p>
吉岡（事務局）	<p>失礼をいたします。そしたら、合併の必要性ということで、27ページ以降になりますが、（1）の合併の必要性と（2）の合併の効果と課題、29ページ、30ページに分ですね、両方朗読して提案させてもらいたいと思います。</p> <p>（1）合併の必要性。</p> <p>神崎町、大河内町を含め、全国の多くの自治体では、人口減少や少子・高齢化に伴う地域活力の低下、産業の低迷など、さまざまな問題に直面しています。また、地方分権が実行の段階を迎える中で、今後はこのような問題に対し、市町村の自主性・主体性のもと対応していくことが求められています。</p> <p>このような状況の中、両町が合併を行う背景には、次のようなことが挙げられます。</p> <p>1）地方分権社会への対応。</p> <p>平成12年4月に地方分権一括法が施行され、地方分権の推進に向けたさまざまな動きが活発化しています。今後は、住民に最も身近な行政である市町村が、その創意と工夫により、個性あふれるまちづくりを行うことが求められる時代になってきています。市町村には、これまで国や県の責任であった権限の移譲が進み、自己決定・自己責任のもと、専門的かつ高度な住民サービスを、これまで以上に提供できる力をつけることが必要となってきました。</p> <p>このような時代の要請にこたえるため、これまで以上に専門性の高い政策立案能力の強化や、そのために必要な職員の確保・育成が求められるとともに、増加する事務量に対応していくための職員の適正配置や、みずから事業を実施していくための安定した行財政基盤の確立</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>が求められています。</p> <p>2) 広域的課題への対応。</p> <p>兵庫県ほぼ中央部に位置する両町は、市川及びその支流沿いに広がる平地部で地理的につながっており、これまでも神崎郡としてのつながりや、播但連絡道路やJR播但線等の道路・交通条件の整備による、文化、経済、生活、医療等各方面での深い結びつきを有しており、生活圏の一体化が強まっています。</p> <p>また、行政面においても、消防、医療・福祉、ごみ処理を初め、さまざまな分野で協力関係を構築し、効率的な広域行政を進めてきました。しかし、共同で取り組むべきものの中には、前述したような産業振興や環境対策等、広域で取り組んでいく方が効果的な新たな課題も増加してきています。</p> <p>こうした生活圏の一体化やこれまでの広域行政の取り組みを踏まえるとともに、新たな課題に的確に対応するため、圏域全体から見てより必要性の高い施策に対する重点的な投資や、広域的視点に立った、一体的かつ効率的な住民サービスの提供体制づくりが求められています。</p> <p>3) 少子高齢化、人口減少への対応。</p> <p>両町ともに、県平均を上回るペースで高齢化が進むとともに、過疎化が進行しています。今後高齢化・過疎化が一層進めば、保健・福祉・医療に対する住民ニーズが増加し、今後ますます行政経費の増加が予想される一方、若年層の減少は税収の減少にもつながることから、このままでは、基本的な行政サービスの提供に支障を来すことも予想されます。また、過疎化の進む地域では、地域コミュニティー内の互助活動なども機能しなくなり、集落の維持管理が行えなくなることも考えられます。</p> <p>このような状況に対応するため、地域内の豊かな自然環境等を十分に生かした新しい地域の魅力づくりを行うとともに、合併に対する特例的な財政支援策の活用による生活基盤整備や、住民が主体となった地域振興のため取り組みを支援していくなど、定住環境や雇用環境の向上に努め、人口の流出に歯どめをかけることが求められています。</p> <p>さらに、観光・交流人口の積極的な呼び込みを進め、地域全体の活力の向上を図っていくことが求められています。</p> <p>4) 厳しい財政状況への対応。</p> <p>今後両町においては、人口の減少に加え、また景気回復についても現状においては非常に不透明な情勢にあることなどから、町税を初め</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>とする自主財源についての増加が見込みにくい状況にあります。</p> <p>また、新町の財源は、国からの交付金等にかかなりの部分を依存することが想定されますが、国の財政状況は極めて厳しく、今後、これまでのように市町村に対する国からの財政支援等を期待できない状況です。</p> <p>このような状況に対応するため、地域全体を見据えた行政組織の適正配置による行政コストの削減や、公共施設の効率的な整備など、限られた財源の有効活用を行う一方、若者の定住促進や産業振興による税収の安定化を図り、財政基盤の安定化を図っていくことが求められます。</p> <p>(2) にいきます。合併の効果と課題。</p> <p>合併の必要性を踏まえ、両町の現状と課題から考えられる合併の効果と、その効果を発揮するための課題として以下のような視点が挙げられます。</p> <p>1) 観光・交流の促進が期待されます。</p> <p>(考えられる効果)。</p> <p>1つ目、両町が有する観光施設・資源を活用することで、より多様な連携や観光ルートを設定を行うことができ、交流人口の拡大による地域の活性化を図ることが考えられます。</p> <p>2つ目、兵庫県の中心部という立地環境と、比較的恵まれた交通環境を生かし、播磨・但馬・丹波等の各地域とのより広域的な連携を図りながら、中山間地域の振興や、都市地域との交流の要所としての役割が期待されます。</p> <p>3点目、特例債の活用により、両町の一体化や観光ルートの構築のために必要な基盤への重点投資も考えられます。</p> <p>次に、(効果を発揮するための課題)としまして、1つ目としまして、観光ルートとしての魅力を創出するためには、観光施設の特色化・差別化を図る必要があります。</p> <p>2つ目の課題としまして、新町内だけでなく、周辺市町も含めた広域連携の促進を図っていく必要があります。</p> <p>3つ目の課題、観光ターゲットの明確化を図り、より積極的なPRを図っていく必要があります。</p> <p>次に、2)としまして、農業・林業に係る広域的な取り組みの促進や、新しい産業の創造が期待されます。</p> <p>(考えられる効果)。</p> <p>1つ目、従来からの地域の基幹産業である農業・林業の再生、さら</p>

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>にはその基盤である山林や農地の保全に向け、より広域的な取り組みや共同体制の構築が期待されます。</p> <p>2つ目の効果、商業、工業等に係る組織強化により、新しい基幹産業創造に向けた体制が強化されます。</p> <p>(効果を発揮するための課題)。</p> <p>1つ目の課題としまして、市場競争下にあつては、農業・林業ともに非常に厳しい状況にあることから、生産物の付加価値化や直売などの、価格競争とは違った観点からの取り組みが必要です。また、共同体制の構築に向けては、新町内だけでなく、より広域的な体制の強化が求められます。</p> <p>課題の2点目としまして、地域の経済循環を創造していくための産業間を横断した取り組みが必要です。</p> <p>3) コンパクトな市街地形成による効率的な公共投資、効果的な人員・施設配置が可能になります。</p> <p>(考えられる効果)としまして、1つ目が、類似施設の建設が抑制され、維持管理等に係る経費の削減が図れるなど、効率的な公共投資が可能となります。</p> <p>2つ目、両町の平地部の連続性を生かした効果的な公共施設及び人員の配置と、公共交通のネットワーク化により、それぞれの強みを生かした利便性の高いサービス提供環境の構築が可能です。</p> <p>3つ目としまして、既存施設をできる限り有効利用するとともに、時代のニーズに合った用途への転用を図ることも期待されます。</p> <p>(効果を発揮するための課題)としまして、1つ目としまして、中心部のみが発展するのではないかと不安に十分配慮し、高度情報基盤を生かしたきめ細かいサービス展開が求められます。</p> <p>2つ目、常に住民のニーズを把握し、行政施策・事業の優先順位を判断するためのシステムづくりが必要です。</p> <p>4) としまして、規模の拡大や集落の再編等により、地域社会を支える自立心の高い人材・組織の育成が期待されます。</p> <p>(考えられる効果)としまして、1つ目、子供同士の交流機会が増え、学力や人間性の向上への寄与が期待されます。</p> <p>2つ目、集落の再編等により、自立性の高い自治組織の立ち上げが考えられます。</p> <p>3つ目、環境問題などより広域的な問題に対して、意見を集約し、対策に取り組む組織の立ち上げなどが期待されます。</p> <p>(効果を発揮するための課題)としまして、住民自身ができること</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>（自助）、住民と行政が一緒に取り組むこと（共助）の考え方に対する理解醸成が必要であります、ということです。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>事務局より合併の必要性についてご説明をいただきました。</p> <p>ただいま合併の必要性について、地方分権社会への対応、広域的な視点での体制づくり、また少子・高齢化に起因する人口減少問題、さらにはますます厳しさを増す財政への対応等が上げられておりますが、これにつきましてご意見やお聞きになりたいことがございましたら、ご発言をいただきますようお願いをいたします。</p> <p>どうぞ。</p> <p>私の方からちょっと、ぐあい悪いんですがちょっとお聞きしたいと思います。</p> <p>幼稚なことかわかりませんが、合併に対する特例的な財政支援についてちょっとお話をもう少し聞きたいんですが。</p>
浅田（事務局）	<p>合併に関しましては、前回の13日にも申し上げましたように、新しい法律、3つの法律が今年5月19日に参議院で可決され、5月26日から公布、施行されておるところでございます。</p> <p>今回の合併、前回の旧法と同様に、合併に際しましては、いわゆる1つには合併特例債、いわゆる関係市町村が寄るのにいろんな経費が必要でしょうということで、1つには優遇されます借金なんですけれども、合併特例債というものが発行されます。両町合わせまして、人口の関係とかいろんな算出根拠があるんですけれども、神崎・大河内の人口1万3,500人の場合でこの合併特例債というものが約50億円ございます。</p> <p>しかしながら、これにも一つの大きな基準と申しますか、落とし穴と申しますか、そういったものがございまして、これまで両町もそれぞれいろんな道路基盤、また下水道、大きな事業をたくさんやってきております。そういったものが町民1人当たりに対する公債費、いわゆる借金として残っておるところでございます。これらの比率を少し難しい言葉で申し上げますと、起債制限比率という一つの指針がございまして、その率が兵庫県の場合は14%というものを超えますと、幾ら合併する、関係する市町村でも、その基準の例えば神崎・大河内で50億円あっても、すべて使うことはできませんよということが言われてございます。</p> <p>かといって、50億円といいながら、実際にじゃあその率が高いか</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>ら幾ら使えるんかというところなんですけれども、これにはもう少し時間が、県との協議とかいろいろございまして、50億円のうち20億円とか25億円、30億円とかといったものが今後協議の中で詰められてくる部分がまず1点ございます。</p> <p>それから、よく言われます地方交付税、これが合併市町村に対しては、新しい法律では18年3月31日までに合併をした団体につきましては10年間プラス5年間と、従来から申し上げております10年間は旧町部分のものを保証し、そして5年間段階的に落としていきますよと。しかしながら、交付税も毎年国の総額が決まってからの話になりますので、必ずしも100%前の町の額が保証されるというわけではございません。当然、国の全額の集まってきた所得税とかいろんな5税の中から配分されるわけでございますので、そういったものが減れば当然毎年交付される額も減ってはきますけれども、一応合併する団体についてはある程度の額は単独でいくよりも補償しましょうということが言われております。しかしながら、この18年3月31日以降も、合併しても、5年間は交付税というものは段階的に見ましようということも言われております。</p> <p>いろいろ合併特例債と地方交付税の中で、仕組みが変わっておりますけれども、そういった大きな優遇措置がございまして。</p> <p>それとあわせまして、この合併、新町建設計画の中にも、今後反映をしましてまいりますけれども、県の事業、いわゆるこのあたりですと県道とか河川とか、そういった大きな県の建設的な事業がこの中に入っております。それらは今後中播磨県民局の方が中心になり、合併関係する市町村に対しましていろいろ協議をし、優遇的な措置が講じられるということがございます。</p> <p>もちろん、合併する場合にはいろんな補助金、コンピューターの関係とかいろんな推進していく経費とか、いろんな補助はメニュー的にはたくさんございますけれども、大きな財政的な支援といたしましては、先ほど言いました合併特例債並びに地方交付税、この2つが合併関係市町村に対する大きな財政支援でございます。</p> <p>それと、地方交付税、臨時加算措置といたしましては、5年間で1億7,000万円、また合併の国の方からの補助金といたしましては3,000万円ずつの3カ年、9,000万円という格好で入っております。</p> <p>こういう形で、合併に対してはさまざまな支援措置が講じられておるところでございます。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにどなたか。</p> <p>どうぞ。</p>
岩本委員	<p>大河内の岩本です。</p> <p>事務局にちょっとお伺いするんですが、今合併特例債と地方交付税の話されましたですけど、当初言われておった額と現在変わってないわけなんですか。</p>
浅田（事務局）	<p>合併特例債は、50億7,000万円という額は、また基金10億8,000万円という額は、計算ルールがございまして、それ入れたらそれぴしっと出てくる格好になります。それは限度額でして、じゃ実際その中で、50億円あるんですけども、両町がいろんな整備をするのに、例えば50億円全部使えますかといったら、先ほど言いましたような、従来神崎・大河内両町でそういう借金をした事業をたくさんしておりますので、実際使える額はどれぐらいになるのかということころは、もう少し時間がたたないとそのあたりは出てこない。</p> <p>つまり、この新町建設計画の次回以降でしていただきます主要施策とか、そういったものがある程度煮詰まってきて、それに財源を張り充てていって、じゃあその中に国からの補助金、またその残りを合併特例債使おうとか、いろんなことを抱き合わせてこないと、実際合併特例債が幾ら使えるかという協議が県とできないという部分がございます。</p> <p>今のところ、事務局で大まかな想定なんですけれども、25億円から30億円前後かなというところでございます。</p> <p>1つには、起債制限比率という14%という大きな壁がございますので、その壁を破ることはできませんので、それ以内という額に恐らくなろうかと思えます。</p>
井上（委員長）	<p>よろしゅうございますか。</p>
岩本委員	<p>はい。</p>
井上（委員長）	<p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p>
坂田委員	<p>神崎町の坂田です。</p> <p>今、合併の必要性ということでご説明を聞いたわけですね。この書類を27ページから30ページまでの朗読説明を受けたわけですけども、全体的に感じたのは、一つ一つ取り上げて言えばあれなんですけど、この前の段階でまちづくりの課題ということで整理してきて、今</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
<p>井上（委員長）</p> <p>上垣委員</p>	<p>度はその課題があるから、合併する必要性があるんですよと、こういう話で整理されていかないかんのに、文面の言葉じりを一つ一つつかんでいけば、どうもおかしな表現になってるのがあるんじゃないかなと。</p> <p>だから、こういう課題が既に出てるんですよと、だからこの課題を克服するために、合併の機会にこういうことをやっていくんだというのが合併の必要性ではないかなと思うんですよ。だから、そういうまとめ方でちょっと見ていくと、何か文章的にひっかかるところは若干出てきますんで、もう一度その辺のところを整理し直していただけたら。内容的にどうのこうのというんやないけども、一般の人に説明するときに、何や課題もそのまま必要性の中へ入ってるような表現になってますんで、やっぱり課題は課題、課題を克服するためにこういうものを仕組みを作っていきますよとか、体制づくりしましょうとかという、住民も参加した、一緒に考えましょうとかという、そういう仕組みを作りますよと、合併の必要性というのは課題を克服するためのものであるというような、何かそういう位置づけ、書いていただけたらわかりやすいんですが、何か課題と同じように書かれとる部分があるように思い、ちょっと私の意見としてそういうように思いましたんで。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p> <p>大河内の上垣です。</p> <p>先ほど、大河内の岩本委員さんの質問に関することなんですけども、ちょっと補足と言ってええか、ちょっと言わせていただきますと、実は大河内町の区長会が昨日おとといございまして、そのときに当然のことながらこの合併協議会等々の件についてテーマになりまして、町長等からも説明があり、区長の方からの質問等も出ました。</p> <p>その中で、いわゆる当初言っとった状態よりもやはり変化しているというようなニュアンスのお話がありました。いわゆる三位一体の改革の中、税源移譲等々で、当初言われとったいわゆる10年云々の話がもう既に、ちょっと言葉は悪いですけども、ちょっと保証ができるんかなというような、私自身がそういうふうな感じを持っただけで、ほかの区長さん方はどう感じたかわかりませんが、そういう中で大河内町の区長会としたら、後日、一応区長会に一回説明をしてほしいというような意見が出ましたんで、ちょっと補足的に発言をさせて</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
<p>井上（委員長）</p> <p>難波委員</p>	<p>いただきました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>次。</p> <p>どうぞ。</p> <p>神崎町の難波です。</p> <p>こちらに書いてあるのを拝見いたしますと、課題をクリアできれば合併の効果があらわれるというふうにとらえているんですけども、ここに書かれている課題については、これまた抽象的な書き方かと思います。それで、1つお聞きしたいんですけども、ここに書かれている課題というのは、何とかクリアできそうなレベルの課題と踏んで提案されているかどうか。新しいまちづくりを行う上で、この課題はクリアできそうな課題と踏んでいらっしゃるのかどうか、お聞きしたいと思います。</p>
<p>井上（委員長）</p> <p>浅田（事務局）</p>	<p>事務局の方、何かありますか。</p> <p>先ほど難波委員さんの方からご質問のございました関連、それからまた当初藤原委員さん、また大河内の藤原委員さんからもご説明がございました、自分たちがこのワークショップをやって前回いろいろ張りつけた課題、そういったものが、たとえ単純なものであるかもわからないけれども、この文言として一つの文字の中に整理縮小されてしまっておるんじゃないのかという意味も、私は少しとらえて、もう少し自分たちがせっかくやったものがなぜのってこないんだというふうな、いわゆる手作りの計画になっていないん違うんかというふうな感覚を私はとらえました。</p> <p>ですから、この課題点につきまして、後ほど新町の建設基本方針、そういったものが、例えば1)の自然環境、こういったものは基本方針の何ページの何番に具体的な施策が出てますよとかというふうな連動性を持ったものを、これからコンサルにまたお願いをして協議していきたいと。先ほど難波委員さんから出ました、また坂田委員さんからも出ましたいわゆる一つの連動性、こういう課題があって、こういう必要性があって、こういう施策が必要ですよといったものの一つの流れ、そういったものを、何もいいものじゃなくてもいいから、実現できて自分たちでやれるという見込みの、いわゆる絵にかいたもちにならないようなものを作っていこうじゃないかというふうなご発言の意味がかなりあったのかなというふうに理解をいたしております。</p> <p>そういった大きな意味でしかようお答えいたしませんけれども、そういうワークショップでいたしましたような課題点もできれば資料の</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
<p>井上（委員長）</p> <p>足立（会長）</p>	<p>後ろの方にも、少し3つの分科会のワークショップの動き、そういった課題点、そういったものも一緒に参考資料として張りつけながら、これは私たちが作りましたよというふうな形のものにしていきたいというふうに考えております。まだまだ中間的な立場といいますか、中間的な形での整理しかいたしておりませんので、そういうふうな意味でひとつご理解いただければというふうに思います。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>どうぞ。</p> <p>オブザーバーさん、申しわけございません。このまま地方分権がもう少し進めば、例えば財源移譲が民主党の提案のような形で10兆円ぐらいが市町村に移譲されるという状況になれば、それぞれの今の課題のクリアはできる、比較的できるのではないかな、これが2年先になるのか3年先になるのか、あるいは5年先になるのかわかりませんが、かなり実効性のあるようにこの課題処理の中で見受けさせていただいております。</p> <p>ただ、その場合につきましては、例えば組織づくりというか、住民主体の皆さん方で組織を作っていただいてコミュニケーションをどう醸成するかとか、そういったことについては住民の皆さん方のご意見をかなり出していただいて、そういう手法をやらなくてはなりませんけども、実現は不可能な問題ではないのかなというふうに受けとめさせていただきます。</p> <p>それには、やっぱりはっきり言って地方分権がしっかり進むことと、それからその受け皿としてはやっぱり冗費、むだな経費というんが、に金を使わないということで、例えばもう人件費等につきましてはできるだけ抑制が可能な状況、すなわち合併をしていくことも大事でありましょうし、そしてその委員等についても数も十分審議をして、できるだけ経常経費といいましょうか、そういった経費を抑制をしていく傍ら、そういった政策経費にというんが、課題処理のために予算をつけていくということ、これは住民の皆さん方の提案として受け入れながら、それを政策に反映していくというような形にやれば、非常にやりやすいんじゃないかなと思います。</p> <p>そのためには、やっぱりしっかりと専門性を持った職員の醸成というものは、職員を育ててあげること。今までは、国が補助要綱を作ったり運用方針を作って、それに倣って仕事をしておれば、福祉の問題であれ児童の問題であれ、それでいいわけなんですけども、財</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>源移譲があって、それを地域に合ったように作れということになりますと、それをすべての住民の皆さん方に反映していこうとすれば、よほどの政策能力というんか、そういう要綱を作るにいたしましても、職員の資質が問われるわけでありませう。</p> <p>したがって、これからの時代は、大きな合併なら合併の大きな中で有望な職員をいかに育てていくかということが大変重要になるんじゃないかなということであろうと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p>
高内委員	<p>大河内の高内です。</p> <p>この厳しい財政状況への対応なんかを見ますと、当然のことのようなことを書かれておりますけれども、しかしながらそれやからこういうふうには財政を持っていくんやというようなことが何も掲げられてないようにも思いますし、この合併協議会の副会長がこのごろよく言われておる大河内・神崎で交付金が3億5,000万円減ったんやと、せやからシミュレーションしたんがもうつぶれてしもうたというようなことも言われておりますし、そういったもんについてでも、やはり合併をするならば、それをどういうふうに対応していくんや、だから合併せなあかんのやと、減るからやというような肉づけをやっぱりしてもらわんと、ただ単にそういうことをどんどん流れていくと、それじゃ、そんなもん合併しても一緒やないかと、そやったらせんのがええというようなことになって、将来的にそういう地方分権がずっと進んで来て、ほな大河内・神崎、今この機会を失うてしもうたら、それでいいんかどうかということは、やはりこの間の合併委員会でうちの立石委員が指摘したように、やはり過去にも問題も残すし、皆さん方はやはりこういう行政のプロの集団なんで、やはりその辺をこういったところでもう少し、今から出されると思うんですけど、やっぱり出してもろうとらんと、こういう抽象的なことでずっといって、それは当たり前前のことを書いてあるんやけど、この手法が何であるかということも一つもないから、やっぱりその辺も今後は出してほしいなと思います。</p>
井上（委員長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p>
山下委員	<p>この合併の必要性ということで、今後新町がということで、それぞ</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
足立（会長）	<p>れ地方分権社会への対応、広域課題への対応とかいろいろ述べられているわけなんですけども、これそれぞれの神崎町・大河内町がこの問題に対してどう対応されているかというのを、単独の場合ですね、それを具体的に述べた上で、この2町での問題というのは初めて対応が、問題点が出てくるんじゃないのかなというふうに私は個人的には思うわけなんですけど。単に2町が合併して2になるというもんでなくて、1町と1町が足して3になるようにどう工夫していくかということは、この内容からは全く見えてこないように思うわけなんですけども、それに神崎町・大河内町がこれらの問題に対して一体どのように生き残りをかけた対策をとっていかうとして、その上で2町で合併すればもっといい効果が出てくる。そういうことが出てこない。ちょっと私たちにはこの文面だけでは多分全然理解できないでしょうし、具体的な生活の部分で、どこの部分で自分たちの生活が困ってくるんだらう、そういうことを初めて、あってこの合併問題というのは語られてくるんじゃないのかなと思うわけなんですけども、その点、今日足立町長来られてますから、ちょっと答えていただければどうかと思うんですけど。</p> <p>おっしゃるとおりだと思います。</p> <p>先ほど高内委員からご発言ありましたように、三位一体の構造改革、平成16年度はまさに3億円の減でございました。そこで、16年、17年度予算につきましては、今総務省におきまして、少なくとも平成16年度の地方財源を切ると、それ以下になることはないという考え方で措置がなされておるわけでございます。したがって、財政のシミュレーションにつきましては、おっしゃるとおり、平成15年度決算、そして平成16年度の当初予算を基軸とした将来シミュレーションをもう一回立て直す必要がある。そして、そこへ17年度予算でとられようとしている三位一体の構造改革3兆円の減額、3兆円の財源移譲という形が、この8月、9月に、12月までになると思いますが、どのような形でとられるかによって、向こう5年、10年のシミュレーションが大きく変わるということでございます。</p> <p>しかしながら、それぞれの町が抱えている財政状況を素直に考えてみますと、どちらも財政破綻というんでしょうか、はもう目に見えておるわけでありまして、そのためにはそれぞれ単町でやる場合につきましては2町でやるよりももっと財源の削減といいましようか、支出の削減を行わなくてはならないと思います。特に、固定費といたすと人件費でございますが、人件費等につきましても思い切った削減</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>をしなくてはなりませんけども、現在の地方公務員法ではそれができない仕組みになっております。したがって、非常勤等あるいは常勤の特別職等の給与を、報酬等を大きく削減します。</p> <p>例えば、我が町では議会に対して私が申し上げておるのは、このままで単町でいく場合については三役はもう一人町長だけに、あと収入役は会計係を置く程度にやらなくてはならないでしょう。そして、町議会議員は6人か7人で無報酬といったような形でやっていただかないと、将来大変な状況、福祉の方にお金を回すことができないんじゃないでしょうか。そして、現在の職員数もしばらくは補充しないで、やはり3分の2程度、30%程度はカットしなくてはならないでありますという状況が想定されるわけであります。</p> <p>神崎の場合についてはそういう状況、大河内町についても、考えてみますと確かに20億円の町の町税のうち15億円が関西電力の発電所の償却資産税が占めておるわけでありましたが、これはいわゆるピーク時の電力の需要に対してまかなうための発電でございます、現在の電力の自由化等が考えられる中で、もうピーク時の電力供給は必要ないんじゃないかなというような議論もなされておると聞いております。</p> <p>したがって、今後この揚水発電に対する設備投資は次から次に行うことは多分ないだろう。すなわち、減価償却に向かって一直線にいわゆる定率償却がなされてくるということになりますと、毎年8,000万円から1億円の税収が落ちてくる。もちろん、地方交付税で補てんされるということではございますけども、税としてはそういう状況でございます。</p> <p>さらに、両町のいわゆる生産基盤を比較いたしますと、非常に脆弱であるというような状況がございまして、将来的には少子・高齢化はもとよりでございますけども、商工業の出荷額とか、あるいは農業生産、いわゆる販売額だとか、特に今少子の問題についても大変深刻な状況が想定されるということでございます。</p> <p>そういうことを考えてみますと、2町が、2町では本当は満足できないんでありますけども、しかし財政特例の間ということになりますと、2町でもやらなくてはならないということになるであります。幸い2町については生活環境施設が似通った整備状況であるというような状況から、それが選択されるわけであるというふうに思います。</p> <p>またさらに、両町の発展の問題を考えてみますと、やはり夢は開け</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
山下委員	<p>るといいでしょうか、播但線沿線ではかなり今乗車率が減っております。平成12年以降、播但線の利用状況が大きく削減、特に長谷の利用率が大きく減っております。</p> <p>こういった問題をどう立て直していくのかとか、あるいはまた砥峰というようなすばらしい高原があるわけでありますが、年間5万人と聞いておりますが、この5万人についてやはり消費が全然ない、金を落としてないということに大きな問題があるんじゃないか。たくさん、この計画でも交流人口、交流人口と書いておりますけども、交流人口来ただけで活性化するわけじゃないんでありまして、それに対応できる農業基盤の整備だとか農業生産を出していくとか、あるいはまた要は消費をしていただけるようなものを作らなくてはなりませんし、そういう、それを活性化構想というんでありまして、そういう手だてが必要ではないだろうかというふうに思います。</p> <p>山下さん今おっしゃったように、両町の合併しない状況での財政のシミュレーションを示し、そしてそのために合併したらどうなりますということをしっかり説明資料を出さないといかんということはおっしゃるとおりでございますので、今後用意させていただくということになると思います。ちょっと的が外れとったかもしれません。お許しいただきたいと思います。</p> <p>もう一つお願いということで、足立町長、非常に口がおおらかな方なんですので、両町がいろんな案を出したのをやはり客観的に評価するという、同じ町内で言いますと、やはりちょっと地域内のしがらみがあってなかなか言えないような問題も多々出てくるでしょうけども、やはり今後一緒になるということであれば、ざっくばらんに相手の施策というのを評価していかない限り、そのよしあしというのをはっきりお互い認識した上でじゃないと、やはりしこりを残したような合併をすべきではないというふうに思いますので、是非両者、両町の交流が深まるような場にしていただければと思います。</p>
井上（委員長）	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。貴重な意見、ありがとうございました。ほかにどなたか。</p>
井上（委員長）	<p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>ないようでございますので、ここで3時25分まで休憩いたします。</p> <p>午後3時07分 休憩 午後3時25分 再開</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
<p data-bbox="201 181 408 215">井上（委員長）</p> <p data-bbox="201 443 408 477">吉岡（事務局）</p>	<p data-bbox="469 181 1391 264">それでは、時間が参りましたので会議を再開をさせていただきます。</p> <p data-bbox="469 286 1391 369">次に、新町建設の基本方針について、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p data-bbox="499 392 719 425">事務局、どうぞ。</p> <p data-bbox="499 443 1193 477">どうも失礼します。長時間になってまいりましたが。</p> <p data-bbox="469 495 1391 784">そしたら、3番目の新町建設の基本方針ということで、手元の方に、34ページと35ページ、これをカラーで印刷させてもらったものを置いておりますので、白黒では、白黒印刷の分でわかりにくかって迷惑をおかけしているんですけども、カラーの分が、これが正式に冊子に、新町建設計画ができた暁にはこういうカラーでいくということですので、お示しさせていただいております。</p> <p data-bbox="469 801 1391 884">それでは、3)新町建設の基本方針ということで、朗読させていただきます。</p> <p data-bbox="499 907 778 940">(1)新町の将来像。</p> <p data-bbox="499 958 807 992">1)将来像設定の背景。</p> <p data-bbox="499 1010 807 1043">〔地域の特性と課題〕。</p> <p data-bbox="469 1061 1391 1406">これまで見てきたように、新町には、豊かな自然資源に加え、観光施設、文化・スポーツ施設及びそれらを結ぶ交通基盤など、充実した施設・資源があります。ただし、これまではどちらかといえば、ハード偏重による事業・取り組みが中心でした。地域内に有するこれらの施設・資源に対し、住民・行政が一体となって知恵と工夫を出し合い、手をかけていくことで、さらなる地域魅力の向上や、交流の促進が期待されます。</p> <p data-bbox="469 1424 1391 1507">地域の特性ということで、1つ目、豊かな自然環境。対応が求められる課題としまして、荒廃が進む自然環境の維持管理。</p> <p data-bbox="469 1525 1391 1664">地域の特性、地域の基幹産業であった農林業。これについて対応が求められる課題として2点、1つ目が、生産物の付加価値化、産業の担い手の確保、農地、山林等産業基盤の多様な活用。</p> <p data-bbox="469 1682 1391 1821">地域の特性としまして、3つ目、多数の観光施設・資源。求められる課題としまして、施設の特色化、連携促進、地域住民自身による利活用促進です。</p> <p data-bbox="469 1839 1391 1977">次に、地域の特性、高齢者の増加。これについての課題ですが、1つ目が、出歩きやすい環境整備、生きがい創造の場づくり、非常時における迅速な対応。</p> <p data-bbox="499 1995 1391 2029">地域の特性としまして、次に若者層の地域外への流出。これについ</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>での対応が求められる課題として、就業の場の確保、子育てしやすい環境づくり、地域特性を生かしたライフスタイルの創造。</p> <p>次に、地域の特性としまして、充実した生涯学習・スポーツ施設。対応が求められる課題としまして、各施設の特色化、ニーズに応じたサービス内容の転換。</p> <p>次の丸としまして、地域の特性、集落単位での活発なまちづくり活動。対応が求められる課題としまして、町全体や広域での活動の促進、2つ目、住民のまちづくりへの関心の向上、3つ目、防災体制の強化や防災意識の向上。</p> <p>最後に、少子化の進展について。対応が求められる課題、学力向上や豊かな人間形成のための環境づくりということです。</p> <p>〔合併の効果〕ということで、左側が期待される効果、向かって右が効果の最大化に向けた課題ということで、まず期待される効果としまして、観光・交流の促進。これに向けました課題としまして、ターゲットや観光ルートの明確化、周辺市町を含めた広域連携の促進。</p> <p>期待される効果の2つ目、農業林業に係る広域的取り組みの促進、そして新しい産業の創造。効果の最大化に向けた課題としまして3つ、上から順に、付加価値化・直売等による価格競争との差別化、産業間を横断した取り組みの促進、そして周辺市町を含めた広域的な共同体制の強化。</p> <p>次に、期待される効果の3つ目として、2つ要点がございます。1つ目が、効率的な公共投資、2つ目が、効果的な人員・施設配置。課題でございますが、1つ目が、中心部・周辺部におけるサービス水準の均衡化、2つ目が、公共投資に対する評価システムの導入。</p> <p>期待される効果の最後になりますが、自立心の高い人材・組織の育成ということで、課題としまして2つ、1つ目が、自助・共助の考え方に対する全住民への理解醸成、2つ目が、無関心層に対する積極的な働きかけということでございます。</p> <p>下側に大きく、これはあくまでも案です、皆さんの活発な意見もらったらいいと思うんですが、新町の将来像の案としまして「ハートがふれあう住民自治のまち」ということで、次めくっていただいて、ここでまちづくりの将来像(案)ということで、大きなキャッチフレーズとしまして、「ハートがふれあう住民自治のまち」ということで</p> <p>す。</p> <p>あと、下、朗読していきますが、その中身が結局「ハートがふれあう住民自治のまち」というキャッチフレーズでどうでしょうかという</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>ことになってございます。</p> <p>読みます。</p> <p>新町は、ちょうど兵庫県の真ん中に浮かぶハートに見えます。旧町はそのハートのちょうど半分ずつを形づくり、2つが合体することで初めてハート型が形成されます。そして、そのような単なる地図上の形だけでなく、兵庫県の真ん中に位置することや、播但連絡道路、JR播但線、そして中国自動車道など、いわば「動脈」、「静脈」に相当する交通環境も充実していることなどから、兵庫県の「心臓部」としての役割を担うことが期待されます。</p> <p>新町内部においては、豊かな自然や農産物、多数の観光資源、文化・スポーツ施設を有するなど、心の豊かさをはぐくむための環境が充実し、また各集落における住民主体の自治活動も活発に行われてきています。</p> <p>新町のまちづくりにおいては、このような地域の特性と、合併の効果を最大限に生かすことが重要です。</p> <p>「心臓」には、血液を浄化しさまざまな臓器へと送り届けるという役割があります。新町に置きかえれば、新町に暮らしたり訪れたりすることで心身の生気が養われ、また周辺地域との人や資源の良好な「循環」が生み出されるようなまちづくりを行うことが期待されます。</p> <p>子供からお年寄りまでのすべての人が、地域の愛を感じながら生涯を謳歌し、また豊かな自然と向き合いながら、力強い生命や活力をはぐくみ、そしてさまざまな人と人との心の触れ合いが、安心して暮らせる地域、また訪れたいと感じさせる地域を形成していく。そのような新町の将来に向け、住民と行政が一緒になって取り組んでいくことが大切であると考えます。</p> <p>そこで、新町におけるまちづくりの将来像(案)としまして、「ハートがふれあう住民自治のまち」と設定しますということでございます。</p> <p>隣にいきまして、(2)まちづくりの目標。</p> <p>「ハートがふれあう住民自治のまち」を合い言葉として、以下の3つの視点からまちづくりの目標像(目指したい生活像や観光・交流の姿)を示します。</p> <p>まちづくりの目標1「愛・やさしさ」 ～子どもからお年寄りまで、豊かな愛情・やさしさにつつまれるまち～。</p> <p>1つ目、子供たちが、山林や田畑、河川などの自然と触れ合い、学</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>校・家庭・地域の愛情に守られて、生きる力や創造力、人に対する思いやりなどを身につけることのできる町を目指します。</p> <p>2つ目、若年層の地域外への流出が見られる中、子育て世代が地域の支え合いの中で安心して子供を育てられ、都市部にはないゆとりあるライフスタイルを享受できる町を目指します。</p> <p>3つ目、高齢者が長年培ってきた暮らしの知恵や経験を生かし、子供たちとの触れ合いや、地域文化の継承に携わるなど、いつまでも地域社会における生きがいを見出せる町を目指します。</p> <p>4点目、すべての人が、気軽に町中へ出かけたり、在宅において多様なサービスが受けられたりするなど、安全かつ安心して日常生活を過ごせる町を目指します。</p> <p>大きな、まちづくりの目標2、「命・いきいき」 ～自然の恵みと共に生き、力強い命の躍動・活力をはぐくむまち～。</p> <p>1点目、山林や農地、河川が、豊かな生命の営みをはぐくむ土壌として、第1次産業の基盤として、そして地域の個性ある風景として保全され、またさまざまな活動の場として利用される町を目指します。</p> <p>2点目、農業や林業といった第1次産業資源が、女性、若者、学生、都市住民など多様な担い手によって活用され、第1次産業に対して多様な就業形態が実現できる町を目指します。</p> <p>3点目、地元でとれる健康食材が、地域内の住民や学校、さらには来訪者によって消費され、地元産材が地域内で積極的に利用されるなど、地域内での良好な経済循環が生まれる町を目指します。</p> <p>4点目、充実したスポーツ・レクリエーション施設が活発に利用され、また地域内の移動に際する手段として自転車が積極的に活用されるなど、健康創造の町を目指します。</p> <p>5点目、時代のニーズにマッチした既存施設の見直しや、さまざまな組織の連携・強化が行われ、新しい文化や産業が創造される町を目指します。</p> <p>大きく、まちづくりの目標3、「心・ふれあい」 ～住民どうしの顔が見え、人と人との心のふれあいが生まれるまち～。</p> <p>1点目、地域コミュニティの中でのあいさつ運動や清掃活動等を通じ、住民同士の顔が見え、安心して暮らせるまちづくりを目指します。</p> <p>2点目、住民が地域のまちづくりや、町全体の課題に対して関心を持ち、主体性を持って課題解決に向けて取り組む住民自治のまちづくりを目指します。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>3点目、都市の住民や子供たちなどが、地域の自然に触れ、観光・宿泊施設を利用しながら、心身の生気を養うなど、長期滞在者を積極的に受け入れる町を目指します。</p> <p>4点目、播磨と但馬の合流点として、さらには兵庫県中央部という立地条件を生かし、東西南北さまざまな地域との連携の強化による、交流圏域づくりの要所を担う町を目指します。</p> <p>3点目、(3)新町の都市構造図ということで、1)広域的な位置づけ。</p> <p>広域的な立地特性から見た新町のまちづくりの方針として、以下のような方向性が考えられます。</p> <p>周辺地域との連携による地域課題への共同による取り組み。</p> <p>西播磨地域、中でも宍粟郡は森林文化を有しており、森林資源の保全、林業の振興といった地域課題に対して、より広域的な視点から共同で取り組んでいくことが可能です。</p> <p>2点目、北播磨、丹波地域は、田園文化を有しており、農業の振興、地域産品のブランド化、農地景観の保全といった地域課題に対して、連携・協力して取り組んでいくことが可能です。</p> <p>3点目、姫路、京阪神等都市地域に対しては、自然の恵みや生気を養う場を提供し、さまざまな体験活動を通じた交流を促進していくことが可能です。</p> <p>4点目、また南北方向では、播但連絡道路やJR播但線、市川を通じた流域連携など、恵まれた交通環境や水系としてのつながりを生かし、通勤・通学や、文化・スポーツ交流、買い物等を含めた日常的なさまざまな人と人との往来・出会いを演出していくことが可能です。</p> <p>大きな丸としまして、交流の圏域づくり。</p> <p>以上のような周辺地域との連携を進めながら、兵庫県の中山間地域における交流の圏域づくりに取り組み、新町は圏域内交流の起終点として、さらには地域間連携の要所としての役割を果たしていきますということで、下にイメージ図を書かさせていただいております。</p> <p>隣にいきまして、2)新町の地域構造。</p> <p>新町内部の地域構造を、ゾーン、拠点、交流軸という3つの要素により示しますということで、下側に図面でお示しをさせていただいております。</p> <p>大きな丸のゾーンとしまして、〔街なか・交流ゾーン〕、まとまりを有する平地部を生かし、便利で快適な生活環境に資する各種基盤・施設をバランスよく配置するとともに、新町の玄関口として、交通機</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>能の充実を図ります。</p> <p>〔自然・交流ゾーン〕、県立自然公園に属するなど、新町を代表する自然環境を有し、住民や来訪者のさまざまな親自然活動の場としての環境充実を図ります。</p> <p>〔暮らし・産業ゾーン〕、自然との共生を図りながら、日々の暮らしと生業の活動のための環境が、バランスよく整備されたゾーン形成を図ります。</p> <p>大きな丸、拠点、ゾーン内における拠点的な役割を示す地区として、3つの拠点を位置づけます。</p> <p>〔住民サービス拠点〕、新町の庁舎機能を含め、医療・福祉、文化・スポーツ等に係る各種住民サービス提供のための拠点形成を図ります。</p> <p>〔地区サービス拠点〕、各地区の住民ニーズに応じたきめ細かなサービスの確保や、住民の主体的な活動を支援していくための拠点形成を図ります。</p> <p>〔観光交流拠点〕、観光・宿泊施設の充実・特色化とともに、相互に連携を図りながら、来訪者の地域内での長期滞在を目指します。</p> <p>大きな丸として、交流軸。</p> <p>新町内のゾーン、拠点間のネットワーク化はもとより、周辺地域との連携も踏まえた交流軸の明確化を図りますということで、大きな太い矢印で示させてもらっていただいております。</p> <p>少し時間超過しとんですが、最後に(4)主要指標の見通しということで、1)総人口の見通し。</p> <p>過年度調査による推計値に加え、この過年度調査というのは、神崎町で言いますと平成14年11月ごろのブロック別座談会のときの数値ですね。それから、大河内は平成15年2月ごろの1回目の合併問題の座談会のときのことをいってます、この過年度調査と申しますのは。過年度調査による推計値に加え、平成7年と12年の国勢調査人口をベースとしたコーホート要因法による推計値により、総人口の見通しを検討することとします。</p> <p>過年度調査とコーホート要因法による推計結果を比較すると、ほぼ同様の推計結果となり、合併10年後の平成27年で約1万1,900人、15年後の平成32年で1万1,300人になると予測されます。すなわち、現在の傾向がこのまま続くとすれば、平成12年時点から比較して、2,000人以上人口が減少すると見込まれています。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>この人口減少の要因として、新町の場合、特に若者層の流出が影響しています。そこで、合併による住宅施策や、就業対策の推進による地域外への流出抑制を図り、人口の社会増減を発生させないと想定した場合、合併10年後の平成27年で約1万2,400人、15年後の平成32年で約1万2,000人になると予測されます。</p> <p>これらの数値を踏まえ、新町における合併15年後の人口は1万1,300人を下回らないように努め、目標値として1万2,000人の確保を目指すこととしますということで、下側に過年度調査、それぞれ冒頭に申しました15年2月、あるいは神崎は平成14年11月ごろのブロック座談会のときに使った数値という意味なんですけども、その分の人口見通しですね。</p> <p>下側にコーホート要因法による総人口の見通しということで、コーホート要因法とはどういったものかということについて、37ページの方に書かせていただいております。</p> <p>37ページは飛ばさせていただいて、38ページ、2)世帯数の見通しということで、世帯数については、さきに示した人口の見通しを1世帯当たりの人員で除して求めています。</p> <p>1世帯当たりの人員は直近5年間における世帯人員の伸び率の平均値を用いて予測し、合併15年後の平成27年には2.92人、15年後の平成32年には2.75人になると予測しました。</p> <p>そして、この数値を用いて、前述の総人口を除すことにより、過年度調査及びコーホート要因法における人口予測値に対する世帯数は、合併10年後で4,069世帯、15年後で4,106世帯になると予測されます。</p> <p>一方、社会増減を発生させないとする場合には、合併10年後で4,240世帯、15年後で4,360世帯になると予測されますということで、下側に世帯人員の推移、そして過年度調査人口及びコーホート要因法予測人口による世帯数の見通し、最後に、手だてをして社会増減を発生させないと想定した場合の世帯数の見通しということで、数値を上げさせていただいております。</p> <p>以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、この新町建設の基本方針を示され、あるべき姿はどのようになったらいいのか、またどうあるべきか、重要なポイントであると思います。</p> <p>委員の皆さんのいろいろな新しい町のイメージをお持ちのことと思</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
藤原（日）委員	<p>います。どうぞ、どなたからでも結構でございますので、積極的なご意見をお願いをいたします。</p> <p>どうぞ。</p> <p>済いません、神崎町の藤原です。</p> <p>表現の細かい点を修正していただきたいなと思うんですけども、32ページの将来像でちょうど真ん中辺に「「心臓」には、血液を浄化し」という表現がありますけども、これは解毒を担当する肝臓とか、ろ過の腎臓とか、それから酸素との交換の肺ならわかるんですけども、心臓の場合は浄化した血液を他の臓器に送り込むんですから、その分表現を変えていただいた方がいいと思います。</p> <p>以上です。</p>
井上（委員長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>次。</p> <p>どうぞ。</p>
奥野（恵）委員	<p>神崎町の奥野でございます。</p> <p>若干細かいんですが、内容的には大事なところだろうと思うんで、34ページの上の方ですけども、（3）の1）の下のちょぼ1あたりで、「西播磨地域、中」、森林文化の関係については次の行で「より広域的な視点から共同で取り組んでいくことが可能です」という表現と、その次の農業についても「連携・協力して取り組んでいくことが可能です」。どうやるんだというんがない。このあたり、やっぱりひとつ例えばというあたりでもええから書くべきやないんかな。でないと、ちょっとわからへんのです。やっぱり、町民も見てもちょうとわからないかなと思うんで、例えばこう思ってるんだよというあたりあれば、一緒に。例えば林道をつけて、地総と同じようにつけちゃうんだとか、こちらの方については広域的な集落営農をもってやるんだとか、そういうあたりをちょっと加えて、具体性を出していただきたいというふうに思います。</p> <p>以上でございます。</p>
井上（委員長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>次、どうぞ。</p> <p>どうぞ。</p>
西畑委員	<p>神崎町の西畑です。</p> <p>この新町の地域構造という一つの大きな神崎なり大河内なりのいろんな人口交流なりいろんな形での示しがございますが、実は産業建設分科会の方で、神崎なり大河内が新しい町になっていく中で、一つの</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
足立（会長）	<p>考え方としてその町自身がひとつ手をつなぐというような、そういったものが必要じゃないかなというような意見が出まして、この表を見ますと、長谷の方から神崎町の大山の方ですか、のような形で絵が描かれておりますが、これにつきましてはちょっと大変大きな課題になってくるんじゃないかなと思いますけれど、そういった面でここにおられます神崎町の町長さんとしてはどのような考え方をしておられるのか、ちょっとその点をお願いしたいなと思います。</p> <p>俗に言われるトンネルの話ですか、そういうことですか。</p> <p>この件につきましては、循環道とか、あるいはまた砥峰の県有資産の有効利用活用とか、あるいはまた防災の関係とか、そういった意味から考えまして、非常に重要な事項だと位置づけておまして、私この間合併協議会で少し話をさせていただいたものでありますから、少し裏づけということで、対県折衝もいたしておまして、実現が不可能ではないというような感触を受けております。</p> <p>今、この新町建設委員会とか合併協議会でその必要性が強くという結論が出れば、当然大変重要な路線ということで、いい提案ではないかなというように受けとめてはおりますけど。</p>
井上（委員長）	<p>よろしゅうございますか。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p>
松山委員	<p>済いませぬ。神崎町の松山です。</p> <p>入れていただければの話なんですけれども、32ページ、「ハートがふれあう住民自治のまち」のところなんですけど、中ほどから下なんですけど、「子供からお年寄りまでのすべての人が地域の愛」を感じながらというところがありますけれども、その次のページの方には、子供たちが「自然と触れ合い、学校・家庭・地域の愛」という言葉で、子供たちは「家族の愛」という言葉で守られてる文言が入ってるんですけど、お年寄りの方の今現在家族の愛を余り感じておられない方も出てきておるように感じます。ですから、32ページのところに、家族の、子供からお年寄りまでのすべての人が「家族の愛、そして地域の愛を感じながら」というふうな文言を入れていただければいいんじゃないかなと。</p> <p>そして、それもまた次の方へ高齢者の方の家族愛というんですか、そういったことへのつながりにもしていただければいいんじゃないかなと思います。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>ありがとうございました。</p>
	<p>次、どなたか。</p>
	<p>どうぞ。</p>
坂田委員	<p>神崎町の坂田でございます。</p>
	<p>35ページの今日いただいたこのカラーの資料なんですけど、下の図の方、両町合併したときの。1つは、自然・交流ゾーンの左側と右側のところ、それから真ん中辺の下に丸いのがあるんですけど、色が違うのはなぜかというのをひとつお聞きしたい。右と左と、3つあって右側の方が自然・交流ゾーンとして色が違ってると。</p>
	<p>それと、上の方で横に西播磨地域、宍粟郡方面と、それから北播磨・丹波地域の方へ行ってる地区サービス拠点というのが途中にあるわけですけど、黄色い点々で囲んだ。これをつないでる矢印、ライン、これはどういうことを意味してるのかなというのが、東西横に、道路がある、ほかのやつは道路があったりなんかするんである程度理解できるんですけども、この真ん中がちょっと理解できないところがございまして、この辺のところはどういうことを意味してるのかな。この2点をお聞きしたいと思います。</p>
吉岡（事務局）	<p>どうも濟いませぬ。1点目の自然・交流ゾーンなんですけど、これ</p>
	<p>実はパソコンの調子が悪かって、色、ブルーになってますね、神崎町のグリーンエコーの辺かな、それと峰山、砥峰の上小田の辺なんですけども、この自然・交流ゾーンは緑が正解で、これ製本するときは気をつけて緑にさせていただきたいというふうに思います。どうも申しわけございませぬ。</p>
坂田委員	<p>横の分、ライン、このラインは何で、ここつながってる意味は。</p>
吉岡（事務局）	<p>濟んませぬ、濟んませぬ。そして、太いブルーで神崎・大河内結んで</p>
	<p>いる線については、さっきも足立町長が言われたように、トンネルですね、これをイメージして、実現するかどうかわからないんですけども、2町合併に当たりましては是非展望したいということで、入れようということで入れさせていただきました。濟いませぬ。</p>
井上（委員長）	<p>よろしゅうございませぬか。</p>
	<p>どなたか。</p>
	<p>どうぞ。</p>
上垣委員	<p>たびたび濟いませぬ。大河内町の上垣です。</p>
	<p>さっきの質問の続きですが、私もちょっとこの東西のいわゆる矢印で囲まれた線をちょっと意識しとんどんですけども、先日初めて私もちょっと神崎町の方も行ってみたいというようなことがありまして、初め</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	<p>てヨーデルの森、それから作畑、新田から生野の方に抜ける道とか、初めて、猪篠から、いい道がついとるなと思ひまして、奥猪篠の方に抜ける道で、たまたま地元の方がおられまして、お聞きしたら、いや、この道は、僕もそうかなと思つたんやけども、上越知に抜けられますということで、単車で走ってみました。だから、いわゆる東側の道路は恐らく林道でやられた道路じゃないかと思つてますが、いわゆる町長さんが説明されておられるトンネルというのは確かに構想は当然ええかと思ひますけども、ちょっと実現面でどうなんかなという気がしますんで、今回の時点では破線ぐらいでどうなんかなというように気がしとるんと。</p> <p>延長的にも約4キロぐらいあるんかなと思つてます。それであれば、トンネル区間が約3キロぐらいになるんかなというように気もしまして、僕の経験からいえばちょっと実現がどうなんかなという、個人的には思ひます。</p>
井上（委員長）	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに。</p> <p>どうぞ。</p>
中山委員	<p>33ページの方なんですけど、まちづくりの目標というところにいる書いてありますが、今までずっと今日やってきて課題がここに載ってるような気がするんです。課題であるはずなのに、目標になるというふうに私は受け取れるんですけど、例えば2番の「命・いきいき」の中に「農業や林業といった」というて、担い手が少ないと言われてはるはずなのにここに書いてあるんですけど、でも最後、「実現できる町を目指します」って、どっちにでもとれるような書き方の文章がたくさん出てきてるんです。ですから、私はこれちょっと納得できないんですけど、私個人としては。</p> <p>前半でいろいろ課題とか出たはずなのに、何かここで目標になっちゃってるっていう、発想の転換なんでしょうかというふうに私は感じられます。</p> <p>それと、全然神崎町・大河内町の特徴というか、そういう言葉が全然文章に出てきてないんですよ。例えばスポーツ施設でも、例えば名前を出すとか、この町に合った文章にしてほしいと思ひます。これでしたら、悪いんですけど、全国どこ行っても通用するような文章じゃないかなと思うんですけど。神崎町・大河内町にしかできないような文章にしてほしいと思ひます。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>貴重な意見、ありがとうございました、どうも。 ほかに。 よろしいですか。 ほかにございませんか。 どなたか。 ほかにございませんか。 〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
井上（委員長）	<p>ほかに、特にないようでございますので、いろいろな今意見をありがとうございました。貴重なご意見がございまして、事務局で十分聴取いたしておりますので、今後の計画づくりに反映をしていただきますようお願いをしておきたいと思えます。</p> <p>次に、その他ということで事務局の方からお願いをいたします。</p>
浅田（事務局）	<p>先ほどはどうも、貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>各委員さん方に1つだけご理解をいただきたいというふうに思うわけなんですけれども、確かに今回神崎・大河内の合併に係ります新町の新しい建設計画ということで、それぞれ両町の特徴、そういったものを加味しながら言葉の中に、文章の中にそういった言葉をきちっと明記していくのが本来かと思えます。しかしながら、この計画、両町のみでとどまることなく、兵庫県、また国の総務省の方に上がってまいるといこともございまして、その辺ひとつご理解をいただきたいという部分がございます。</p> <p>また、新たな新町になったの総合計画及び振興計画、こういったものにつきましては個々の名詞が出てきて、それぞれに対する具体的な策定年次、財源はどうなんだということが入ってこようかと思えます。</p> <p>そういった形で、本計画につきましても、本日出ましたような意見を十分に取り入れた形で、本日は課題、また必要性、そして基本方針、こういったものを再度検討し直しまして、継続という形で次回の小委員会の方で再度各委員さんにお目を通していただき、ある程度方向性を出していきたいなというふうに考えております。</p> <p>そういった中で、この冒頭にも申し上げましたように大体夏ごろ、8月ぐらいを目途にという一つの事務局といたしましては県協議のために方針を持っておりますので、集まっていただく回数が夏までに大変多くなるんですけれども、次回の第6回の建設計画の小委員会、昼間休みの日、夜というふうなパターンを持ってあるんですけれども、7月3日の土曜日なんですけれども、午前中にちょっと計画をしたい</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
井上（委員長）	<p>んですけれどもいかがでしょうか。</p> <p>今、事務局の方から次回の小委員会の日程につきましてお願いがございましたが、7月3日ということで開催をさせていただきたいなと、こういうことですが、どうでしょうか。</p> <p>余り差しつかえがないようであれば開催をさせていただきたいなと。後の日程等もございまして、非常に会議が過密になりますけれども、何とかご協力をいただきたいなと、かように思います。</p> <p>どうぞ。</p>
浅田（事務局）	<p>それと、その本日の継続審議になりまして、次回のときに本来は計画をしておりましたのが、前回と同様に再度もう一度3つの分科会に分かれていただきまして、次はいわゆる本日提案いたしました基本的な方針に基づきます主要な施策、そういったものの検討をワークショップ方式で行っていただこうと。その主要な施策と申しますのは、単にハード的な部分ではなく、いわゆるソフト的な部分、いろんな計画づくりとかといった部分を含めたハード・ソフト全体をとらえたこの新町建設計画にのせていくワークショップを計画したいと思っておったんですけれども、本日の継続審議を受けまして、その次の第7回ときにはそういった具体的な事業別のワークショップを開催していきたいというふうに考えておりますので、少し日は延びますけれども、事前にご準備をいただきまして、次回7月3日の日に少しでももし時間がございましたら、ワークショップという方式ではなく、全体会の中で各委員さん方からハード、またソフトを含めた本日の合併の課題、また必要性、基本方針、そういったものの中に入りますような事業、こういった、新町になれば事業やったらどうかといったような意見交換会もできればなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
井上（委員長）	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>今ご説明がございましたように、大変ご無理なお願いを事務局の方からもされておるようでございます。それで、7月3日の日に開催をさせていただきたいなと思っておりますので、よろしゅうございましょうか。</p>
井上（委員長）	<p>〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕</p> <p>特に、ほかにご意見がないようでございますので、次回の小委員会は7月3日土曜日の日開催をさせていただきます。</p> <p>時間は。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
浅田（事務局）	<p>時間は午前9時から、午前中という形をお願いをしたいというふうに思っております。</p>
井上（委員長）	<p>午前9時から。</p>
浅田（事務局）	<p>神崎町のケーブルテレビの方で、そしてその前、二、三日前の6月30日にはご案内しております第6回の合併協がございますので、引き続きになってしまいますけれども、何とぞよろしくご協力お願いしたいと思います。</p> <p>なお、7月11日の合併協につきましては、ご存じのように参議院議員の選挙がございますので、恐らくその日には開催できないということで、日を改めてまたご案内はしたいと思います。</p> <p>そして、できることなれば本日の3つの課題、必要性、そして基本方針、このあたりが一度まとまりましたら、これは合併協定項目の6番目にも新町の建設計画ということで、小委員会で決定するものではございません。協議会で承認をいただくという形になってございますので、協議会の協議事項としてある程度中間部分で一度ご報告をしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p>
井上（委員長）	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、次回の委員会は7月3日土曜日午前9時から11時まで、神崎町のケーブルテレビの局舎で行いますので、よろしくお願ひをいたします。</p> <p>特に何かほかに、今までご説明をいろいろといただきましたが、これだけは聞いておきたいとか、言っておきたいなということがございましたら、今ご発言をいただければと思いますが。</p> <p>どうぞ。</p> <p>ございませんか。</p> <p>〔「なし」と呼ぶ者あり〕</p>
井上（委員長）	<p>それでは、ないようでございますので、本日は新町のあってほしい姿にいろいろなお意見をいただきました。ありがとうございました。</p> <p>今後まだこの暑さがしばらく続くようでございます。ご自愛をいただきまして健康には留意をしていただきまして、ご活躍をお祈りを申し上げます。</p> <p>また、本委員会に与えられました計画づくりにさらにご尽力をいただきますようにご期待とお願ひを申し上げます、本日の委員会を閉会といたします。本当に今日はお忙しい中ありがとうございました。</p>

発 言 者	議 題・発言内容・決定事項
	ご苦労さんでした。